

6 3 6 1 - 6 5 4
平成 1 8 年 6 月 2 3 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 1 8 年度病害虫発生予察注意報第 2 号について

平成 1 8 年度病害虫発生予察注意報第 2 号を公表したので送付します。

平成 1 8 年度病害虫発生予察注意報第 2 号

平成 1 8 年 6 月 2 3 日
宮 崎 県

病害虫名 斑点米カメムシ類
作物名 早期水稻

1. 発生地域 : 早期水稻栽培地帯
2. 発生時期 : 出穂期～糊熟期
3. 発生程度 : やや多

4. 注意報の根拠

- (1) 6月上旬の水田周辺におけるイタリアンライグラスほ場での生息密度は、県全体平均 14.3頭(平年比:並 前年より多い)で、一部の地域によっては特に高いほ場が見られた。(表 - 1 参照)
- (2) 6月中旬の巡回調査では、発生面積率は13.1%(平年値16.2)で平年並であったが、20回すくい取り虫数は1.1頭(平年値0.4頭)で、平年より多い発生で、出穂前の本田への早い飛来が認められた。
- (3) ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシは各調査地点で確認されており、いずれも斑点米産出能力が高いため警戒が必要である。
- (4) 今後の天候は、気温、降水量及び日照時間は平年並みと予想されている(鹿児島地方気象台1ヶ月予報6月16日発表)ことから、カメムシ類の活動に好適であり注意が必要である。

5. 防除上の注意

- (1) 地域内で出穂の早い水田には集中的に飛来する恐れがあるので注意する。
- (2) 防除時期は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本であり、高密度の場合はさらに追加防除が必要である。防除薬剤は穂いもちとの同時防除剤の使用が効果的である。
- (3) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので、広域の集団一斉防除に努め防除効率を高める。
- (4) 薬剤等その他の詳細については関係機関に照会すること。
なお、ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うことが必要である。周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

表 - 1 斑点米カメムシ類の生息密度(県内平均)

本 年	前 年	平年値
14.3	5.5	12.7

調査はイタリアンライグラスほ場の20回振りすくい取り虫数
数値はミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ
4種合計の平均値

連絡先
宮崎県病害虫防除・肥料検査センター(加藤)
TEL: 0985-73-6670
Fax: 0985-73-7499
E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp